

会議結果のお知らせ

令和6年度第1回宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略市民推進委員会を次のとおり開催しました。

令和6年8月13日

宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略市民推進委員会

1 開催日時

令和6年7月31日（水） 午後4時～午後6時

2 開催場所

宮古市市民交流センター 1階 会議室1・2

3 議題

- (1) 委員長及び副委員長の選任について
- (2) 人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略について
- (3) 今年度の開催スケジュールについて
- (4) 第2期宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
- (5) 第3期人口ビジョン（素案）について
- (6) ワークショップ

4 会議の概要

別添のとおり

5 問い合わせ先

企画部企画課地域創生推進室 電話0193-65-7056

令和6年度第1回宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略市民推進委員会

1 出席者（19名）

和川央、三河輝夫、山本美鈴、花坂雄大、渡部玲子、鈴木ちは、井田裕基、
佐々木秀崇、川又講平、村木海公、長岡輝、赤沼悦子、伊東喜幸、井川由貴子、
石川巧、中沢翔馬、成瀬賢紘、伊藤雄基、伊藤綾

2 欠席者（6名）

武藤勝久、芳賀桃子、赤沼喜典、上野宏介、加藤洋一郎、菅野悟

3 事務局出席者（4名）

企画部長 多田康、企画課長 箱石剛、同課地域創生推進室長 竹田真吾、
同課地域創生推進室主任 田中与士

4 傍聴者

なし

5 議事等

(1) 委員長及び副委員長の選任について

事務局案として委員長に和川央委員、副委員長に花坂雄大委員を提案。提案のとおり承認された。

(2) 人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略について

国の長期ビジョンと総合戦略、市の計画策定状況等について事務局から説明した。
質疑等はなし。

(3) 今年度の開催スケジュールについて

今年度の開催スケジュールについて事務局から説明した。質疑等は別紙のとおり。

(4) 第2期宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

現行計画の施策体系と、指標の達成状況等について事務局から説明した。質疑等はなし。

(5) 第3期人口ビジョン（素案）について

令和7年度以降の計画案について事務局から説明した。質疑等は別紙のとおり。

(6) ワークショップ

「30年後の宮古市を想像して」を主題としたワークショップを開催した。

なお、取りまとめの結果は後日委員会で共有することとした。

質疑応答内容

質問・意見	回答
<p>【議題(1) 「委員長及び副委員長の選任について】</p> <p><質疑なし></p> <p>【議題(2) 「人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略について】</p> <p><質疑なし></p> <p>【議題(3) 「今年度の開催スケジュールについて】</p> <p>(委員) 第3期の計画策定において、委員会として意思決定が求められるターニングポイントとしては、第3回（9月開催）を一つの目途ととらえてよいか。</p> <p>(委員) 第2期の計画についてのR5実績の評価検証案の提出予定が10月であり、その前に第3期計画の原案が提出される予定となっているが、第2期の実績の評価検証がなされたうえでの計画となるのか。</p>	<p>(事務局) お見込み通りである。人口ビジョン（素案）における意見集約結果を第2回で共有するなど、情報の共有は随時図りつつ進めたい。</p> <p>(事務局) 令和5年度実績の評価検証案については、指標に国の統計数値を用いているもの等もあり、評価検証案としてお示しできる時期がどうしてもこの時期となってしまう。ただし、第3期計画については令和2年度からこれまでの事業実施の成果や課題を評価検証したものとしてお示しする予定としている。</p>
<p>【議題(4) 「第2期宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略について】</p> <p><質疑なし></p>	
<p>【議題(5) 「第3期人口ビジョン（素案）について】</p> <p>(委員) 素案について、西暦と和暦を併記していく見やすい。本日の他の配付資料では西暦表記のみのものもあったので統一願う。（意見）</p>	

<p>(委員)</p> <p>人口ピラミッドの資料で、40～64歳世代の間の数値がない。併記しても良いかと思うが何かねらいがあったのか。</p>	<p>(事務局)</p> <p>今回の社人研の最新推計を基に、有識者会議で自治体の消滅可能性についてのレポートが公表され、この中で若年世代の女性の減少率が50%を上回る自治体が消滅可能性ありとされている。この若年女性人口の減少が宮古市はどうなのかという点に着目した資料構成としている。ご指摘の意見については、他の世代も併記することとしたい。</p>
<p>(委員)</p> <p>今回初めて委員になった方もいるので確認の意味で聞くが、この委員会に期待することは何か。</p>	<p>(事務局)</p> <p>設置の根拠でもあるが、やはり総合戦略の策定と、評価検証に関する事を議論する場であると認識している。市の考え、素案を委員の皆様にお示しし、様々な意見を伺ったうえで精査し、最終的な計画としていくことを期待している。</p> <p>付け加えて、本日もこの後にワークショップを予定している。こういったワークショップの場を通じて、様々な職種や年代の方のご意見をいただき、行政側だけでは気づけないこと、市民の方の様々な思いを共有し、計画に活かせるという部分が大きいと考えている。</p>
<p>(委員)</p> <p>社人研の最新の推計結果が前回の社人研推計や市の独自推計と乖離した要因は何と捉えているか。</p>	<p>(事務局)</p> <p>市の独自推計は2020年まで社会減ゼロと、合計特殊出生率を段階的に2.07に引き上げるというかなり高い目標の設定のもと将来人口目標を設定したものであり、この目標と現実の人口動態に乖離があったという認識である。</p> <p>次に、前回と今回の社人研推計の乖離であるが、前回と今回の社人研推計について、推計の手法事体は大きく違いはなく、基本的には出発点の人口に生存率や移動率、出生率等の仮定値を乗じて次の5年後の人口を算出している。前回の推計は2020年の国勢調査前</p>

	<p>の推計であり、大きく異なったのが社会増減に関わる移動率の設定と実際の社会動態の動きと認識している。要因としては復旧復興事業のピークアウトが2015年から2020年にかけてあったため、この間の転出増を読み切ることが難しかったものと認識している。</p>
(委員) 社会増減に関する捉え方については了解した。では自然増減に関して、出生に関する仮定値はどうであったか。	(事務局) 前回の社人研推計の仮定値のうち、出生に関する仮定値を合計特殊出生率に換算したうえで市の直近の出生率の動態と比較すると、直近の動態が推計値を下回っていることから、自然増減に関する仮定値についても前回の推計値は高く設定されていたという認識である。